

「いのちの電話」を守り続ける・・・NHK札幌放送局（2020.6.17放送）

新型コロナウイルス感染拡大は、全国・全世界に影響を及ぼしています。

北海道いのちの電話の相談活動も人員縮小を余儀なくされましたが、何とか24時間を維持し、緊急事態宣言解除後の今は、体制を戻し活動継続しています。

このコロナ感染拡大は私たちに想像以上の打撃を与え続けています。

しかし、それでも時は進みます。

私たちは「コロナと共に」と考え、出来る事を模索しています。

このような状況を「NHK札幌放送局」が取材してくれました。

NHK NEWS WEB

北海道 NEWS WEB

「いのちの電話」を守り続ける

06月17日 19時52分



新型コロナウイルスの感染拡大以降、「北海道いのちの電話」には、以前にも増して深刻な相談が寄せられています。

「いのちの電話」は、ボランティアが支える民間の組織で、運営費用のほとんどを寄付やチャリティコンサートでまかなってきました。

今、相談が増える一方で、運営費用の確保が課題となっています。どのように相談窓口を守ろうとしているのでしょうか。

【増え続ける深刻な相談】

今、「北海道いのちの電話」が受ける相談の約3割が、新型コロナウイルスによる失業や家庭内暴力などの相談です。

なかでも、4月からコロナに関連した自殺を訴える相談が寄せられるようになり、5月には30件を超えました。

「北海道いのちの電話」事務局長の杉本明さんは、「東日本大震災の時も、1、2か月後に自殺者が増えたという過去があり、これから自殺を訴える相談がますます増えていくのではないかと危惧しています。」

【運営資金が足りない】

しかし、「いのちの電話」の運営費のほとんどをまかなってきた寄付も、コロナの影響で見込めなくなりました。

このままでは資金が足りず、活動に支障をきたしかねません。

杉本さんは、「不安を抱える方にこたえるためには、絶対的に運営資金が必要なんです。どうしましょう」と頭を抱えます。

【支援にバンドの若者たち】

経済状況が悪化する中、「いのちの電話」が望みを託したのがクラウドファンディングです。

そして、そこに協力を申し出たのが4人の若者たちでした。

彼らは、札幌を拠点に活動するロックバンド「ナイトd eライト」。

「いのちの電話」の取り組みに共感し、8年前からチャリティーコンサートに参加して支援を続けてきました。

ナイトd eライト自身も、これまで命の尊さをテーマに曲を作り続け、多くの若者に生きる希望を伝えてきました。

彼らの曲の歌詞で、死ぬことを思いとどまった人もいたといいます。

メンバーは、「いのちの電話」の活動がコロナの影響でピンチに陥っていることを知り、クラウドファンディングの呼びかけに協力を申し出ました。

支援者にオリジナルの曲をプレゼントするなどして、1人でも多くの人の支援を集めようとしています。

リーダーの長沢紘宣さんは、「僕らはステージの上から希望のメッセージを発信して、それを受け取った方が少しでも励ましになればという意味で歌っている。いのちの電話は、逆に受信する側で、辛い、もう生きたくないと思う人の思いを受け取っている。この活動は絶対になくしてはいけない」と強い思いで話してくれました。

【心のSOSに向き合い続ける】

若者たちの支援も受けた「いのちの電話」の杉本さんは、「これからもできるだけ多くの人の大変な気持ちや思いを受け止めていくということに尽きます」と、困難な状況だからこそ活動を続けていく大切さを話してくれました。